

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における旅行市場は、海外旅行においては円安基調に加え、世界情勢不安などの影響を受けましたが、その一方、国内旅行においては、各地の観光振興や新たな世界遺産登録などを背景とした国内志向の高まりにより、堅調に推移しました。また、訪日外国人旅行は、中国や東南アジア諸国の需要が大幅に増加し、当第3四半期連結累計期間で訪日外国人人数が過去最高を更新し続けるなど好調に推移しました。

このような経営環境の中、当社グループでは、お客様への安全・安心な旅を第一に考え、国内外のネットワークを活用した情報やサービスの提供、品質のさらなる向上に取り組みました。また、新たな価値創造へ向けた様々な挑戦を続け、未来を見据えたスピーディな事業展開に努めております。

セグメント別の業績は次のとおりであります。なお、各セグメントの金額は、セグメント間取引を相殺消去する前の金額であります。

①旅行事業

当社グループの営業拠点数は、国内305拠点、海外61カ国129都市192拠点、と全世界1,000拠点の目標へ向けて順調に拡大しております。（前期末比+21拠点、平成27年7月末時点）

日本発海外旅行事業につきましては、昨年末から続く欧州及び中近東における情勢不安や韓国で発生した感染症による影響がありましたが、夏のプロモーション「わすれない夏2015」において、ウミガメと泳げる貸切ビーチ（ハワイ）や絶景特集（アジア）など思い出に残る体験型に拘った企画商品を展開いたしました。また、LCC新規就航に伴い商品ラインナップの充実を図ったほか、多様なお客様ニーズに応えるため、引き続きビジネスクラスを利用した商品や高付加価値商品の拡充に注力いたしました。

インターネットにおける取り組みでは、予約手順の簡略化や検索機能強化に加え、スマートフォン対応などオンライン予約の利便性向上に努めてまいりました。

企業様向けや団体旅行におきましては、引き続き大型団体案件（各種イベントや社員旅行）の受注が増加し順調に推移いたしました。また、新たな取り組みとして視察や会議などを目的とした訪日団体旅行の受客体制を整備してまいりました。

日本国内旅行事業につきましては、重点地域の沖縄において、船でしか行くことができない当社専用ビーチ「ドラえもん35(サンゴ)ビーチ」でお楽しみいただける独自商品を展開しました。また、「湯ウェルカム大分キャンペーン」や「北海道ガーデンショー2015」など自治体と連携した着地型観光ビジネスを推進したほか、人気のバスツアーにおいても商品拡充を図り、好調に推移いたしました。

訪日旅行事業につきましては、中国からの受客が大幅に増加し、海外拠点と連携した東南アジアからの受客も奏功し、引き続き好調に推移いたしました。そして、「ツーリストインフォメーションセンター」を奈良（奈良県）と原宿（東京都）に新設し（国内8拠点）、観光案内やオプションツアーの販売などサポート体制も一層強化しております。また、平成26年11月に訪日旅行需要の創出と日本各地の活性化を目的に設立したANAセールス株式会社との合弁会社「H. I. S. ANAナビゲーションジャパン株式会社（略称：HANavi）」は、平成27年4月よりサービスを開始しております。

海外事業におきましては、ローカル向け拠点として東南アジアにおける多店舗展開を推し進めたほか（タイ27拠点、インドネシア16拠点）、マダガスカルにツアーデスクを開設するなど海外拠点を拡充しました。さらに、台湾やマレーシアなど各地で開催されたトラベルフェアへ積極的に出展し認知度向上へ注力いたしました。そして、世界39カ国で展開しておりますオンライン予約サイト「hisgo」では、前述の「HANavi」と日本国内宿泊予約サイト「スマ宿」との連携を強化し、訪日旅行の促進に努めました。

以上のような各種施策を展開した結果、当第3四半期連結累計期間における旅行事業は、売上高3,371億51百万円（前年同期比101.9%）、営業利益63億11百万円（同148.5%）となり、いずれも過去最高となりました。

②テーマパーク事業

ハウステンボスでは、「花の王国」において、シリーズ史上最大1,500品種111万本のバラが咲き誇る「111万本のバラ祭」や日本最多800品種を揃えた「あじさい祭」を開催するなど「オンリーワン・ナンバーワン」に拘ったイベントを繰り広げました。そして、平成27年5月には、新しい滞在スタイルの創出として「より健やかに美しく」をテーマとした「健康と美の王国」が誕生したほか、雨天時にもお楽しみいただける施策として「ハッピーレイン」を開催するなど、お客様に喜んでいただけるよう様々なイベントを実施いたしました。また、平成27年7月に世界最高水準の生産性を目指し最先端の技術を導入したホテル「変なホテル」がオープンいたしました。

また、平成26年8月より事業を承継しております新生ラグーナテンボスでは、日本最大のエア遊具を集めたビーチパークを新設したほか、地元産素材を中心とした「スイーツカフェ」や「ステーキハウス」をオープンするなど、幅広い年齢層のお客様にご満足いただけるよう取り組んでまいりました。

以上の結果、テーマパーク事業の売上高は233億9百万円（前年同期比123.2%）、営業利益67億33百万円（同110.0%）となり、引き続き順調に推移いたしました。

③ホテル事業

ウォーターマークホテル長崎では、国内外からの団体受客が好調に推移したことに加え、客室単価も改善いたしました。各ホテルにてお客様満足や収益性向上に努めた結果、売上高47億99百万円（前年同期比118.1%）、営業利益3億94百万円（同179.6%）となり好調に推移いたしました。また、平成27年5月に新たなホテルとして、インドネシアのバリ島に「ウォーターマーク ホテル & スパ バリ ジンバラ」が営業を開始し、同年8月にグランドオープンいたしました。

④運輸事業

国際チャーター便専門会社のASIA ATLANTIC AIRLINES CO., LTD.は、成田発着に加え、新たに東南アジアと日本各地との相互チャーター便を実施するなど、チャーター便の特性を生かした展開を行いました。その結果、売上高24億26百万円（前年同期比92.1%）、営業損失9億8百万円（前年同期は営業損失9億70百万円）となりました。

⑤九州産交グループ

九州産交グループでは、バス事業において、通勤通学の利便性向上を図るなど引き続きお客様本位のサービスの提供に努めてまいりましたが、索道事業（阿蘇山ロープウェー等）の火山規制に伴う通年運休などにより、売上高は177億58百万円（前年同期比94.5%）となり、営業利益につきましては、8億34百万円（同96.1%）となりました。また、引き続き熊本県桜町再開発事業に向けた準備を進めております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高3,823億88百万円（前年同期比103.1%）、営業利益117億86百万円（同130.9%）、経常利益149億11百万円（同132.7%）と、5期連続して過去最高となりました。また、四半期純利益につきましても、67億40百万円（同138.8%）と、過去最高の結果となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。